

久原本『平家物語』について（四）

白石 一美

（承前）

本稿は、前稿に引き続くところの本文異同の一覧表であり、高橋貞一校訂『平家物語 百二十句本』（京都府立総合資料館所蔵本の翻刻）を底本として、その本文の校異箇所^{註1}の存在を当該頁の行数本位に項を立て、その右傍に佐賀県立図書館所蔵（佐賀市故久原みね旧蔵）『平家物語』の対応する本文を示した。

校合の範囲は巻第四の初めより巻第六の末尾すなわち第三十一句より第六十句までである。

（前稿（三） 卷七―九 前々稿（二） 卷十―十二）

詞章が前後輻輳して校合の困難な箇所^{註2}、また単なる切り継ぎ補入もしくは削り出しであると判断されるが詞章の長い箇所^{註3}、これらについては一覧表より外して本稿の後ろに一括掲載した。

久原本の各巻初には目録題に対応する内題（句）が無く、また目録題と句題が僅かに異なる箇所がある。さらに京都翻刻本との比較上、句題を立てる位置が異なるケースがある。

各巻の目録句題に「三十一句いつくしま御かう」「四十一句みやこうつし」「五十一句たかくらの院ほうぎよ」とあり、本文内部の句題も同様にすべて仮名書きであるが、一覧表に収める紙幅の都合上、私意により適宜漢字に改め、また句を立てる位置の違いなどについてそれぞれが分かるように配慮した。

発音上、単なる音の開合の違いにすぎないと思われ、伝本研究に直接には役立たないか、と思われる箇所などがあるが、つとめて挙げることにした。

文字遣いの相違について、例えば京都本一八〇頁4行目「御くるまうつしのむまなど」云々、傍線部は久原本に車とあり、単なる文字遣いの違いにすぎず、これらの微細な異同については、前稿（三）に記した私家版に収めるべきであるが、一覧表に収容スペースのある場合にはつとめて掲載し、私家版にはその掲載分を略した。ただし、用語の切れの都合上、私家版にも載せざるを得ない場合には重複であることを示しつつ私家版にも載せた。

同一語が何度も現れる場合には、そのすべてを一覧表に採らず省略し、省略分については、省略範囲を限定し、表の後ろに頁・行で示した。

久原本には濁点を施す際に、濁点を押し誤った箇所がある。一部は表に挙げたが、ひらがな「や」に濁点を押しして活字そのものが無いであろう場合、その他については、私意により表より外し、表の後ろにその箇所を示した。

註1 例えば二八頁15行目など、本表には異文として処理した。

註2 例えば二八頁6行目など、（ ）内に補入せらるべき久原本の本文は、これを後ろに載せた。（以下 後稿）

一七七頁

平家巻第四

4 ちしう四年正月

5 する人もなし。こ

5 とうだう。

6 太夫ながのり

7 同廿。日

11 しんじ かんたちべ

13 でのの びつ中

14 たかりはこ

17 なるまじき

一七八頁

7 いで 共きゐて

11 こんねん なる

12 よ×て

13 しんのぼくてい

15 しふせざつし

16 は、ぎみ てうに

16 かう(し)やう

17 むまれて

一七九頁

1 ときの 申されそや

3 かうぶり×をたま

4 ゐんみや

5 しゆつけ 人の

7 あきの×いつくしま

8 くらゐ× なんとへ

9 しまぐにへ

9 神へしも

10 ゐんは なる。ほう

12 御くはん ありとぞ

13 うへ した

14 きねんのためとぞき

こえし

15 いきどをり×

16 いつくしままでは

17 これによ×て

一八〇頁

1 御ゑんいんあり

3 いらせ給ふ

4 くるま ×むま

7 ながひて こと

9 どのへはせまいりて

10 御事 ゆめ

11 夜ふかふ 御かうを

もよをされけりこの

12 御 ていより。

15 もんゝ17 だり

17 ほうぢうじ

一八一頁

1 どのへてうきんの

2 ゐんじ× もんを

3 ゑんだうを ひとつ

5 ありて上くはうを

5 まいらせ こんねん

6 はえ いくしふぞ

8 ねういん あまごせ

9 御事×は

10 上くはうは

13 三でうの×

15 くないのじう

16 ずいひやう めしぐ

しげうくしふぞ

一八二頁

1 廿六日。あつて

2 さいあい ありて

3 ぶがく 三井でら

3 じやうとぞきこえし

4 ひうびやく 九のえ

5 をわけてゝなさよ

6 ける。まれうど

8 正一。よみて

に。かき けり

10 ほんにのぼせられて

10 じゆ下 てん上を

11 かかい×じゆ上

12 大じやうにう道

12 上くはう

13 なる。風 もどし

14 じゆ給×ふ上くはう

16 たちかへる めぐみ

17 になみもゝになり

一八三頁

1 此ところ ころ×

2 ためなり× た。る

2 こと。御まふけ

3 たりしかども上くは

3 あがらせ給はず

3 こん日は がえ

4 あるぞかしとて

4 かたをもひやりあそ

び給ふ××に いろ

5 ありてたかゝ6して

6 れば(一)さし

6 はしふねにのりて

7 こぎとを。るを

7 つかはす たおり

8 もちて たり(一)心

8 なんと ありけり××

×此花

9 は。たか 大なごん

10 ちどせ ふち まつ

11 (の)ち たはぶれ事

12 たるなとて おはし

13 大きに 大×ごん

17 ゆ、しふ 此 有る

一八四頁

3 をじま 日はそら

3 風しづかにかい上

4 のどけかり 人々の

4 こまないだしつ、

5 くものなみ しのが

5 日×の×に

6 それります ぐぶの

7 みやこへとくと

7ども中より11給ふ^文
 11とばのふかくさへぞ^文
 まいら・れける^文
 12くはんより13給ふ^シ
 13廿二日・しんてい^文
 13あるより17そくああり^文
 一八五頁
 1かうほう四ねん^年
 2御じやけによつて^文
 4御ばからひ上は^文
 5たかみくらよりあり^有
 6共こまつどの、ち^文
 の、^文
 7給ひしあひださゑ^文
 8さだながこま^文
 9どのへたてまつり^文
 10び給ひけるあつし^文
 32句 高倉宮謀叛^文
 16このあかはらの^文
 17ありいつくしふ^文
 一八六頁
 2にはふるつて^文
 4このあかはらに^文

5申・ける天しう大^文
 13国々に^文
 14京にはまづでは^文
 のせんじみつとも^文
 15みつながではのは^文
 15みつしげではのは^文
 16こ六でうのはんぐは^文
 16十郎・候(一つの^文
 くに、は^文
 17こそ候へども^文
 17大なごんなりちかの^文
 一八七頁
 1ふたうじんであらも^文
 2次郎あさざねてし^文
 じやかはちの国^文
 3むさししそくい^文
 しかはのはんぐはん^文
 4の国こ共次郎^文
 5よりはるあふみの国^文
 5山もと^文
 はんわんだいよやす^文
 かしは木^文
 5にしごり^文
 6しげなをあじき^文

7しげながかいたの^文
 8やじましげたか^文
 8しげゆきくに、は^文
 10同X小次郎^文
 10ながきよ^文
 11ひやう衛たけだ^文
 11やすだより15のり^文
 15その同X三郎^文
 16よしすゑむつのに^文
 はこのすゑのこ^文
 17これりなり^文
 17をもたひらげ^文
 一八八頁
 1しゆくばうXとげし^文
 事は源平いづれもを^文
 とりまざりいまは^文
 2へだてをとり^文
 3りやうけにつかはれ^文
 くうじざうじに^文
 3られてやすき^文
 3いかばかりか心うく^文
 4君ならばつるで^文
 5こそより6へどし^文

6ぐしてまいり候べし^文
 とぞ申・けるみやは^文
 此事いかあらん^文
 7しういんもなかり^文
 かどもあこ丸の^文
 8こXこれながと申^文
 せしはときの人^文
 9その人てくらゐ^文
 10天下の事Xおぼし^文
 10申ける源三ゐ^文
 10道もかやうに申さ^文
 れければ^文
 11べきてんしう^文
 11御つげやらんとて^文
 12りくまををめし^文
 12かいより13うじ^文
 13同四月廿八日Xみや^文
 をたつてあふみや^文
 りはじめて^文
 14しだいにゆくほど^文
 にX五月十日いづ^文
 のXほうちうにくだ^文
 りつきて^文

15さきのXしてりや^文
 うじしたには^文
 16よしのりにとらせん^文
 16の国しだうきじま^文
 17たばんへぞける^文
 一八九頁
 3たんぞうX^文
 4かうぶりるべし^文
 7ほういんい下つかう^文
 12さるほどにくはん^文
 13めしけれ共二ねん^文
 14むま御よりめして^文
 15をあそばめてなか^文
 ねXころはいまだ^文
 16めして此かたX^文
 17させてとぞける^文
 一九〇頁
 2それへしるれば^文
 2ちかやがてかん^文
 じやうをまける^文
 3ねとばまいりて^文
 4どもゆるさず^文
 4こえX大より5り^文

5 かん。をこそまい
らせたれひらひて御
らんずるにいま三日
のうちの

6 ほうべし
7 となりて。又いかな
の御なげきの

8 のきやう たへふし
8 にう道しやうこく
やうく

9 なをひて同十三日と
ばどのをいだりつり
10 むん。へ

3 3句 信連合戦
10 かりけるところに
11 みやの御むほん

12 ければ()さきの
12 大きにさはひで
12 にう道し 15 けれ

15 上きやうには
しよくじは

15 とうの中じやう
16 つたて んに
16 げんし 17 源太夫

17 にう道のやうじなり
一九一頁
1 しかるむほんを三
ゐにう道すめ申

2 しらし三
2 いそぎ宮へしうそく
3 をこそまいらせけれ

(信連合戦)
6 みやは五月十五夜の
6 あいぜさせ
7 しうそく みやの御

めのとと とりて
8 御まへにまいり
9 た、今御むかへに
10 みやは。こはいか

11 じう さぶらひ
12 ましますべふ候

13 いちべがさ さ大夫
13 ひたし 14 あげて
14 つる丸
15 いたぎたり

16 こもんよりいで
17 いと物かるくざつと
一九二頁
1 みぞのこえやうや
2 すぎけるが

4 まくらに
5 ひしと 衛。これ
6 をつつき
7 御悦あり

14 一人。まつ
15 では 源太 三百き
16 源太 もんぜんに
17 にはにうちいれて
一九三頁

1 まいり候 じう
2 候はずと なんと
3 まいりて
4 申ける。ものもしらぬ

12 おもてをあはするも
のぞなき 木のは
13 にはにさつとぞおり
13 たえまに月のいでけ

15 つまりに
16 いかでか ゆがめは
17 くらきやうのもの
一九四頁

1 しがひ さやまきは
3 人に よりあふたり
4 けるに もをぬぬ

6 のぶつら。いけど
6 ひつすゑたり
7 大ゆかにたつて
7 さんぢらはせんじ

7 とて。きり
8 つかひを きくはひ
9 あざわらひて
10 さん候。おそひ候

11 にはひかへて
12 とひつれば 申候
12 がうだうな

- 13 なんと、うけ給り
- 14 なにぞ てんせい×
- 日日本んこくを。てき
- にひきうけ
- 15 宮みやの御みさぶらひ
- 16 たちをだにもちて
- 16 よも一人も。かへし
- 17 まつらず。た 候もと共
- 一九五頁
- 1 きりぬる事
- 3 ものもいはず
- 3 らうせう たりける
- 4 おのこ おしみ
- 6 やにはに 二人×
- 7 さ兵衛まひやうへのじう
- 7 あれこそ たうせん
- 8 に入道にんどうもおしふや
- 9 おもひなをりたらば
- のナには
- 9 はうきの。ひのへ
- 10 よと どひの二郎
- 11 出出だして まいりて
- 11 やう× したいに
- 3 4 句 競
- 15 この衛がはら かは
- 16 なれば そんじては
- れたりちあえていた
- はしふぞ…ける
- 17 山やまちを すぎさせ
- 一九六頁
- 1 せまく がたに
- 2 こそいらせ給ひけれ
- 3 に御みしよしつらひて
- いれまいらせたり
- 6 こそとて むせびお
- はします。としごろ
- 7 有有けん ことしは
- 10 九くのえ めいばあり
- 11 いちもつなりなをば
- 12 つかはされたり
- 13 いたはらん して候
- 14 さらばちからに
- 16 ものが昨日きのうもさぶら
- ひし物をけさも
- 16 のりさぶらひ ど、
- 17 ござん せめぐひに
- 一九七頁
- 1 してはしら。せ文ふみな
- ×として 入道にんどう
- 2 きいて
- 6 かげをばいかに
- 7 うたの返しをば 此
- 9 きたりて 見さぶら
- 10 候かや。
- 11 う×て ××き、
- 13 むまゆへ×なかつな
- が 日日本んこくの
- 14 見みんよりは もの
- 15 げにもそれ程ほどに
- 16 さすがに
- 17 天あまが こまつ事
- 一九八頁
- 1 の御みかたへ なは×
- 3 さはぎ又また てにて
- 4 ひだりのて とのい
- 4 いれて御みまへ つみ
- 6 そのとき さぶらは
- 6 中なかつな候まへとなりて
- 7 こにはにいで×
- 8 給たまはれとあり
- 8 わたなべのきおう×
- 9 たまはつて をひて
- 10 こそ られ候まへ×しか
- 11 のりいちの はれむ
- ときもちひらるべし
- 12 はさる御返事ごへんじには
- 13 昨日きのう 候まへ×しか
- 16 同十六日×夜 入道にんどう () らうどう
- 一九九頁
- 2 たて×
- 3 せず。とゞまりたる
- ×ぞんずるむね×
- 6 かうと× うへは
- にても候まへはね×ばか
- くつ候
- 7 としごろ いで入
- 7 あはれしつかはばや
- 8 の給たまへば
- 10 られたる こん日
- 12 すでに くれければ
- 13 入道にんどうすでに 寺てらに
- 14 三井さんせいでらぼうし
- 14 それ。なんとそ
- 15 まつるべふ候まへ こと
- 16 一ひとびき あづからば
- や ありつけばや
- 17 しら ふとくしきが
- 二〇〇頁
- 1 をひて しゆく所に
- 2 し () 三井さんせいでらへ
- 4 ちどり×をしたるき
- 4 をき×ぢうだいの
- 5 よろひ たちを×
- 6 のまつ中なかとり
- 6 こつばうわすれずし
- 7 給たまりたりける
- 7 のりてのりかえ一ひとび
- 8 わき せてやうかけ
- 三井さんせいでらに×はせま
- いる
- きおうし(校合不能)11ぞなき
- 11 あつて () あはれ
- 12 べきものを かせ
- 給たまひて。 めに×

14もはてねばまいりた
り(一)にう道

15かしこまつて

15守の木の下がかはり

16をこ 此馬をこひて

17かね 六はらへ

二〇一頁

1さぶー4ける

35句 牒状

7井 かいかね せ上

8ぶつぼう こんど

8いま にう道

9ぼうあく みや

10天じんぢるいも

10ぶつりよしんりよも

11くはへ なじかは

(注 次項順不同)

13つかはすまづ↓以下

二〇三頁4てうへ続ク

二〇三頁

5たうじ×ぶつぼう×

6られんとこふの

6ぶつぼうしゆしう

7ためなり よるなり

9みだる

10十五(日) にうじ

11せしめ給ふ はなち

12ありと る×よつて

13ぶつぼう 一じにま

さにはめつせんとす

14てんしぐんびやう

15めつせんとせしむる

のとき りやうざん

16何 むれいむさい×

17日にか…とげんや

二〇四頁

1ぶつぼうのはめつ

1しりぞけてひれば

3ちしう四年

5大× りやうじ×

6こうぶくじのてう×

6たりにう道。じやう

かいが

7ぶつぼうをほろぼさ

んと。するのよしの

よしの事をてうす

8りやうけ いへども

8おなじく一だいのき

9ほつきやうともに。

9でしなり ちうだつ

(が)まじやうを

10へいじの ぶしの

11りやうのむちをとる

大くらのきやう

12かせうのしし(の)

いにしへ らるゝの

13しかるに

14らうせうみな。ほう

このかきんをそねむ

ないぐ(は)い

15がう だい なく

16あをさぶらひは

17のぞむ事なししかる

にへいち のおより

17ついたうせしとき

二〇五頁

1さづけ給ひしより

2なんし×あるひは。

だいくはいをかうぶ

り。うりんに

3じゆ×三ぐう

4きよくろをあゆむ

5九しう しんだいす

6となり一もうも心に

6くはうくう

7さかへば あるひは

7しんめい

8ため× りうじよく

をのがれんがため

9かくん だいたく

11けんゐにはゞかりて

11かつにのるのあまり

にきよねんのふゆ

12すまゐをついぶくし

はくろくの身をし

13のはなはだしき事こ

こんにたへたり

14とが しんりよに。

15をさへてくはういん

16ぐんびやうを

16をしこみたてま

17三じよ せんひ(つ)

二〇六頁

1あづけたてまつる

2ざるのよし きじ×

2すて× がんしき

3せざらん× じやう

をかんずるところ

4と。するのよしほの

かに。うけ給り

5ようゐを× だいゆ

5しよじ×てうそう×

まつじにげぢして

6のちにあんないをの

べんとほつするの

7きたつて つうず

8くはんべいをかへす

9ぼうしん ざらん×

よくりやうちん

10しんばつ さつし×

11きたい てう

11ちしう四年

- 12 かきたりける↓以下
二〇一頁14さんへ続ク
- 二〇一頁
15 たうじのぶつぼうの
16 みぎ ぶつぼうをう
しなひわうぼうをほ
ろぼさんとはつす
- 二〇二頁
1 にうじせしむ
2 はなちつかはすべき
3 いだし まさにこの
4 わかると ところは
5 又はくるまの
6 一ばうかくるのをひ
7 ていれはことにがう
りよくをいたして
- 二〇三頁
17 のべきぬの
1 大しゆのよみ
2 ひとときれもえぬわれ
らさへ かずにいる
かな↓以下二〇六頁
「三井寺大衆揃」二接
続シ、二〇三頁3ざす
↓4なんとのナシ
- 二〇六頁
3 6句 三井寺大衆揃
15 いりて 申。けるは
16 をしよせ。ようちに
17 ぞんずるなり
二手^ニに^ニずらんらうそ
うどもは。を^ニ大しやうとして
- 二〇七頁
1 からめて もの共
2 あはやこといでくる
3 ずらむ さ、えて
5 かさかみ ひをかけ
5 一もみもふで
- 5 なじかは いだして
6 しけりそのうちに
7 ばうの いへる
8 かたふど
10 せうれつ 廿よねん
。なびかぬさく木も
11 にて×たやすふ
11 がたし。よくは
12 せいを× べふ×や
13 じう はらまきを
14 しうこを べからず
15 きよみはらのてんわ
16 こほりをすぎさせ
17 くらみにつき給ひ
- 二〇八頁
3 たいふ せんぎはし
4 からめて じやう
5 ばうの ばうの
6 ぎほうぜんえい
7 おに ばうの これ
8 物 一人たうせんの
9 太夫じやう とさ
11 たゆふしきぶ
- 11 五ちめん×
12 ぢやうれん。 ひご
12 じうゑんばう×
13 くはう ほうしばら
14 ほうし みやうしう
15 じけい こんけん
17 次郎さづく じう
- 二〇九頁
1 つ、ぐ×源太あたふ
×むまの三郎
1 きよ(し)す、みを
2 たれけれ 給ふのち
3 大ぜきをひみたり
4 ぎを しごくをし
5 めん×の しばしく
6 ぶりて にげのこれ
7 かんこくはん×此
8 千×でん まねを
9 にはうかれが
11 ごと あらんずらん
14 とおもひ には。い
17 どうしゆく
- 二一〇頁
1 り×此よしを 申さ
れ×六はらへぐんび
やう さはく事も
3 7句 橋合戦
5 めされつれども
6 まじ×とて同×廿三
日 おもむき給ひ
8 ちやう たてまつら
せり給ひ 御返ぼう
9 しやうしんのせみの
9 ふゑただけひとよ
10 ちうほう
11 上×て かちして
12 御ふゑをたまはつて
14 してぞ……ける
15 いま。心 なく×
16 れうげの ちぐうの
- 二一一頁
1 じゆん ぎやうぶに
2 まりて候 きやう
3 山のうちのすとうぎ
やうぶのじう ち
- 9 ちしう四年五月日
12 をしてかくでう×
14 によせ↓16 ける
- 8 ちうさんのむかしに
ぶくせん てう

4 ち、しゆどう つみ
 5 候ぬ ゆうせうより
 6 お、したて べふ候
 8 むせび 三井でらば
 9 よ人 さるほどに
 10 あひだ 夜御しんも
 11 ゐんにいらせ給ふし
 ばし御きうそく 共
 13 これをき、てみやは
 16 はうぐはん (2例)
 17 ぜんし くに(一)い

二二二頁

1 こはた山 こえてう
 ぢのはしづめに
 2 見てければはしより
 こなたにて
 3 三かどなり ひゐた
 4 われ かゝるほどに
 5 おぼれてながされ
 6 (一)が いける もの
 7 つよく りやうばう
 8 ひゐたりてきにはよ
 りあひた たちたる
 9 をばつみくゞり
 10 むかふて てき
 11 を見よとて してぞ
 やぎりの…申ける
 12 めう。みやうしう
 13 どう まつなかえ
 14 にぞす、みける ごと
 15 かくれなし つゝゐ
 16 みやう たうせんの
 16 平家のかたにわれと

二二三頁

1 てをふせて のこり
 2 ゑびらもとゐてかは
 へなげ入てき 見る
 3 むひで はづゐて
 5 なぎなたにて(一)む
 5 てき たびにをぎなたのえう
 ちおつてすて、けり
 6 たちをぬひて
 7 つよふ めぬぎの
 ちやうどおれかはへ
 ざぶといる
 8 なしこしの
 8 あじやりの
 10 ゆきげたはせはし
 11 てをひてあしふ候
 12 ゆらりとこえてぞ
 12 うちじにして×げり
 13 はふくかへりて
 13 ぬぎをひて はずへ
 ければ六十三ところ
 14 いたでならねば
 15 ゆみきりおつてつえ
 につゐて
 15 おちゆきける
 3 8句 頼政最期
 15 源三みにう道は

二二四頁

2 めう。 つわもの共
 3 かはへ入もあり
 4 ひの にぞ…けれ
 (頼政最後)
 7 せんにけるは ひの
 8 なりて 候は 候か
 10 かはち地をやまはり
 10 しもづけの国
 11 又太郎(一)す、み
 11 をふそれ あしふも
 12 めにかくるてきを
 12 いらせさぶらひなば
 13 よし野とづかわは
 13 たゞいまも 給はん
 14 なを かはちを
 15 天ぢくしんだんのぶ
 しがまいりて はん
 16 しもづけ きこえし
 17 大事 中をたがひて

二二五頁

1 につたのう道かた
 ら。はれて
 2 むかひ候×ち、ぶが
 3 わたさずはわれらが
 4 いざわたらん。て
 4 いかだをつくりて
 5 へだて てきをば
 6 かはふかさあさきも
 とねがはに×をと
 7 まつさき くつばみ
 8 をのじ。 ひやうこの
 9 なはに。 たんの
 9 大おかの
 10 大をんじやうをあげ
 11 下ぢ うはて よは
 12 たづなをくれて
 14 いたふひゐてひきか
 づくな てき×いる
 15 あまりに て×へん
 16 わたしてあやまちす
 16 水にしなひてわたせ
 やわたせと下ぢをし
 17 かち×の あかがは
 2 一六頁
 1 きんぶふくりん
 2 あがつて
 3 たはらとうだ 十だ
 い。あしかの×太
 3 ちやくなん
 6 こん日みな平家×
 8 おめひて さすがに
 9 うゑ いづれも
 10 りやうこく ぐんび

10 馬い^りかだををし^らきら
 11 もえぎ^いろく^し
 12 たつたがは^くれ
 14 うぢ^の
 15 か^りぬるかな
 16 くらだのごへ^{四郎}
 17 くらだ^あげて
 二二七頁
 1 かは^をわ^たして
 3 なり^て ひざ^ぐち
 4 てき^をつか^くれば^じ
 なん
 6 しろあ^しげ のり^た
 8 かぶ^とをい^させて
 10 くび^を あが^らんと
 11 へい^じ うち^にて^けり
 12 とな^ふ とな^ふ
 13 御^じがひ^にだ^に
 14 げ^に かう^じやう
 17 つきた^てつ^ら

2 く^びをば^とな^ふ
 3 そ^でにつ^み×
 4 しづ^めて^けり
 6 した^にな^げい^れけ^り
 7 中^いえ^も 中^みつ^も
 8 六^でう^の (2例)
 8 じ^なん^たち^はき^き
 9 こ^きう^じゆ^二年
 10 源^三に^う道^こ
 11 日^ごろ へ^んぜ^ず
 12 とぞ^き お^うた^きぐ^く
 13 き^おう^も
 14 のある^ほど^いて
 15 み^やは^はき^き・な^ぎ
 16 な^た×も^ちて^てき^き
 17 き^しに^およ^ぎつ^く
 17 のぼ^りて^て 人^々
 二一九頁
 1 む^かひ^の む^かつ^て
 3 9句 高^倉宮^御最^期
 5 五^百よ^き 廿^よき
 6 ま^へに^かみ^みや^に
 6 た^てま^つり

7 た^てま^つる^ら
 9 お^にと^さ なん^ど×
 11 む^ねは^る び^やう^の
 12 て^き と^びお^り
 13 あ^りて^てき^き
 14 し^とみ^に
 16 は^しり[×]
 二二〇頁
 1 て^き す^ぎ あ^かつ^り
 2 む^かひ^て こ^つが^は
 3 ゆ^らへ^らう^せう
 3 御^むか^ひに^まい^り
 6 平^家に⁹れ^けり
 10 ま^いり^かよ^ふ人^々
 11 か^み・が^が
 12 とし^ごろ^めさ^れ
 13 こ^をう^み な^じか^は
 14 ら^せて^くび^には^も
 15 ひ^たい^これ
 17 は^らに^御こ^の

6 ひ^めき^み 給^ふなる^ら
 7 ら[×]せ^給 め^のの[×]
 8 つ^ねは^なつ^かし^ふ
 9 ま^いら^れ う^とく^し
 9 女^あん^の御^べん^じ
 10 出^くる^きこ^えあ^りし^し
 11 い^でに^此あ^り
 12 入^いう^道 なん^でう
 13 た^てま^つれ^とて[×]
 16 さ^はり^{たり} 君^は
 17 め^し×^まい^りて
 二二二頁
 1 ち^から^に い^ださ^せ
 2 い^まだ^きたら^ん事^々
 3 い^とお^しさ^よ 年^て
 4 ま^します^をよ^ばす^す
 5 わ^らは^べそ^で
 6 な^くし^{ける} じ^く
 9 よ^に さ^ぶら^ひけん
 10 い^とお^しふ^かは^り
 11 し^らぬ い^れ給^りが^す
 13 よ^ろこ^びて^女あ^んへ
 14 御^心の^中 う^れし^ふ

15 し^やく^じ 給^ふ×
 15 み^やり¹⁶み^や
 16 (か^み) し^げひ^で
 17 ほ^くり^次頁¹く^に、
 二二三頁
 1 木^そじ^やう^らく^の
 2 お^なじ^く あ^りて
 4 と^うじ^う さ^うに^ん
 5 た^がは^ず る^ざい
 6 た^がは^ず そ^うし^ゆ
 7 む^まこ さ^う人^とも
 な^けれ^ども^しか^る
 8 お^はし^ます^に さ^う
 9 此^みや^を×^けれ[・]
 10 けん^てう^しん^わう
 10 さ^きの^中 の^ちの^中
 10 せい^しゆ^わう^じ
 11 つ^ゐに^つか^せ給^は
 12 三^でう^のみ^んの^だい
 13 の^ちは^{たい}し^に
 15 御^こを^御ま^へに^て
 16 三^にじ^よして
 17 む^あより^三に^{なる}

二二四頁

- 1 さださと。のほかは
- 2 しゆせられ
- 2 くはんしや(う)
- 3 しうきよむね三ゐ
- 3 して三ゐのじう
- 3 ことし十二さい
- 4 おはせしに()おそ
- 5 これひと よりまさ
- 5 ぼうしついたう
- 6 これひととは みや
- 7 うちたてまつる
- 4 0 句 鶴
- 11 そもくよりまさ
- 11 よりみつが五だいの
- 13 平治に又 すてまい
- 13 おろ×かなりぢうだ
- 14 しゆごうけ給りてと
- しひさしかりしかど
- もしうでんをば。ゆ
- 15 じゆつくはひのわか
- 16 しょうでん

二二五頁

- 1 まつり×しうでん
- 1 候× つねに三ゐに
- 2 心をかけつ、
- 4 ことしは七十七に
- 5 ゐんの×とき
- 6 ども。しるし とう
- 7 三でうのもと くも
- 10 かくのごとくおびゑ
- 11 よしいへをめさる。
- 12 はぎたるとがりや
- 13 つるがけ ならまえへ
- 14 じやう けもよだつ
- 16 わがみぶゆうのいゑ
- にむまれて
- 17 事は ども。て 事

二二六頁

- 2 おぼえねとつぶやひ
- 3 もちて はぎたる
- 4 きりたる とをたふ
- 4 ちう人に井のさうた
- 5 やをはせた 一人×
- 6 たがはずとう れい
- 7 きたりて ぞゝたる
- 9 八まん そこに×
- きねんしてかぶらや
- 10 かためて
- 10 ふつつとたつ
- 11 どうどおつさうたつ
- つとより さいたり
- 12 むくろく 13 くらなは
- 13 ける。五 もの
- 15 給×るとて う月の
- 16 とぎす× 三こゑ

二二七頁

- 1 おほせかけら そで
- 2 かけ ゆきばさみて
- 3 まかせて
- 4 まつりて御 かだう
- 5 きみ 此 うつを
- 6 み たふみやがは
- 8 くはだち み
- 9 ゆ、しふこそ申。た
- 9 げんじだにもはせま
- 10 ひうへは
- 11 ゐん×御 きん中に
- 12 せんれいをまかせて
- 13 めざせど やみでは
- 15 大かぶら× つがひ
- 16 二のやをかぶら
- 17 にぞおとしたる
- 17 ざゝめひて なゝめ

二二八頁

- 1 御ゑをかつげさせ
- 2 これを給り かつげ
- 2 くものほかのかりを
- 7 御ゑ、ち 給り
- 8 わが身三ゐし×き
- 9 みだれし申せし
- 10 せ×す みだし
- 10 ふぢしたてまつり
- 11 これもつばら×
- 12 まづ。てらをせめ
- 12 同し 14 けり
- 14 ほうしばら
- 15 けれは。やくる
- 15 けん。くはゐんいん
- 16 しやう ぶん
- 17 きうたいくわしやう
- 17 ほんぞんとう

二二九頁

- 2 千五百よ地×やき
- 3 もくはいじんとなる
- 3 ほうもんしやうげう
- 5 れうじん いやく
- 6 ぎ大りやう 天ぢてん
- 8 きうだいくはしやう
- 9 とりた れうげし
- 10 つるに 天ぢ天むく
- はうていのぎう×
- ぶゆの水
- 11 しやうぜきなれども
- 13 れいのこゑ えす
- 14 じゆほうさうじうの
- 16 げくわんせらる
- 16 れうばうみやうせう
- 17 ぞながされける()

平家巻第五

(都遷し)

- 4 ちしやう はら とぞ
- 5 ない ありしかども
- 7 ぎやうかうのみこし

8 まし／＼^まければ
 10 中ぐう^{ちゅう}×あんしやう
 12 とぐぶ 三日^み×
 13 なる。より^{より}もりの×
 14 なり給ふ せうろく
 15 か、い×こゑられ給
 17 り。八^{はち}でう みふく

二三四頁

1 より^{より}て大きに
 3 たやすく^た人のまいり
 4 わらはべこれ 事共^{ことども}
 5 なり。いま^{いま} あはれ
 6 やま ける。平家の
 10 ところ×みやこ
 11 めでたくあり はう
 12 しゆう^{しゅう}のてらく
 13 ほりきつては
 15 すまゐも日を
 16 がわにこぼちいれ
 16 ざうくはふねにつみ
 17 とて たゞなりに

3 までは はてなん
 5 せんじうなきには
 7 地神^{ぢじん}五^ごだい×
 8 みやざきのぐん
 8 ほうそをつゐで
 10 此^{この} たり たひらげ
 11 はらひて かしはら
 13 にほり
 15 しがのこほり
 16 みやこをたつ。かの
 17 じんぐうくはうぐう

二三六頁

2 みかさ×こほりにし
 て。御^ごたんじやうと
 ころを×うみのみや
 3 なくも八まん なり
 4 じんぐうくはうぐう
 4 いはよわかざくらの
 6 なにはのうらに つ
 7 こほりにみやこを
 8 はち いんぎやう天
 10 けいたい^{けいたい}天^{てん}わう五年
 11 をとひこ

12 いるの×みやにみや
 みし給ふ
 14 とよざきのみや
 16 もと×の きよみはら
 17 ちとう おなじき

二三七頁

3 おかにうつりて×十
 3 をぐる丸 ふるさみ
 4 けい×くずの×こ
 ほりうたのむら
 5 てい。ぜんしゆじ
 6 申。よつておたぎの
 7 かの つげて
 8 のちは せいざうは
 よさい(の)はるあき
 9 しよ×みやこ
 10 ちは くはむ天わう
 12 にん よろひかぶと
 14 あらじ 天がに大事
 15 どうぞ ぐん×づか

5 じんしむ^{じん} これは国^{くに}
 6 あとを せんびう
 4 2句 月見
 7 おなじく しやうき
 やうにとく大じど×
 8 ×ちうじやう
 9 ×みつまさくらんど
 のくはん人ども
 11 ぎやうじくはんにん
 ども。まいりて
 12 そうもんし 津の国
 13 きうとをば うかれ
 14 あるとしある人
 17 くはう ひらひて×

二三九頁

1 だいら×かつ
 2 りんじにすはうの国
 4 さうに 国つゐえ
 5 なんだを おひて
 7 御^ごだにもきられず
 8 ときに みつぎもの
 を× たゞし給
 9 あらし×しんは

10 天^{てん}がみだる× ばう
 じ さいてん しう
 11 なかりしよもありけ
 ん物^{もの}を人おそろし
 12 つゐえを× つゐに
 13 さういかなとぞ
 (新^{しん}都^と事^じ始^しめ)
 16 事はじめありて

二四〇頁

1 ふくはらにおはする×
 6 あんないを×えて
 7 けり。のこるいゑ
 ××は
 8 あさでふがはら
 9 くはうぎく 野^のべ
 10 おはし。ける まい
 11 た、かせぬれば 此^{この}
 12 大しやうどの×、
 13 さ×して候 ありし
 14 大しやうどの
 14 御^ごしたはしふ
 15 かうしをあげさせ御
 びはあそばしける

16 づつと 源氏×うち
17 みやの御ひめあきの

二四一頁

3 大しやう みやこの
4 御しよにぞ…ける
5 大みやの御まへにて
6 まされるぞ たちの
9 をよびいだし 物が

13 のみぞ身にはしむ

15 ながしける しやう

16 けるが、御ともに

17 かへりてじやうが

二四二頁

3 じやう× をさへて

5 かへつて此よし×申

6 してぞもの…ける

4 3句 物怪之巻

9 あしふつねは心さは

9 へんげのもの。

10 物いできたつて

13 たいばくのたふる、

14 そろへて、いさせ

15 むかひて (2例)

16 いでつまどを×しひ

二四三頁

2 しふ 道しやうこく

4 あひて あり まん

5 ならまえうきもせず

6 つよふ あたりて

7 に、あとかたも

7 五えうのまつ

8 なでかはれ

9 ねずみ×すをくひこ

12 なを× おんやうの

13 天ぢ れう ねずみ

14 うみたり(し)には

14 きうぞく 日ほんぎ

17 ぎぢやう かたふど

二四四頁

1 あをあをさぶらひ

1 ゆめのうちなれば

4 人 かたはらに

5 わ。がそんにも

7 わがそん

7 たけうち×大明神

8 ほどに、入道

10 ちくでんして×げり

11 さま／＼に

13 心ほぞふぞ…ける

14 きひて すはやよ

15 ござんなれ かたふ

17 心ゑね 申。けるは

二四五頁

1 あるときはぞくたい

2 に×あらず(一)と

4 あくじをき、ては

4 4句 頼朝謀叛

11 たてごもつて候

12 共 いんそつして

13 すぎ山へ 候×ぬ

14 五百×き おほすけ

15 たぬ×こつぼ 国

17 七たうの きぬがさ

二四六頁

1 れ候×ぬこども×

2 とこそ申たれ

3 き、て きうさめぬ

4 うちて なんと、い

ふぞおろかなる又は

たけ山の次郎

5 ち、の を山だの

6 ざいきやう ご日に

7 さゑもんじう

8 ざい京 三人をめし

9 せじといふ もんを

かきて の給へば

10 らせける したしふ

11 きこしめし

12 さ、やく物も にく

13 やう×な、めならず

14 あひだ。じひの

15 ゆみをひく(じ)こそ

15 三ぼうも 給ふべき

16 た(ッ)いま ×ひや

うゑのすけ てうに

17 てうてき ひのもと

いは、れびこのぎよ

う四年き×の国

二四七頁

2 くはんぐん せんじ

3 をほひ はざんで

5 山だの そがの

5 ひのかみ×かはつぐ

6 ださいのせうに。ひ

6 さうらの 井のうへ

9 あく×ゑもん なり

10 いま×よこそわうゐ

11 むかひて

12 したがひきたる中ご

12 しんせんゑんへ御か

13 みぎはにさぎの

15 さぎははねつくるひ

してた、んとす

16 いだゐて あつて

17 まいりた しんめう

二四八頁

1 と。いたをあそばし

てくびにかけてぞは

なたせおはします

4 5句 漢陽宮

5 いこくにむかしの

6 かうふる ながして

7 見んとぞ申けるしく

- はうはあざわらひて
- 8いとまたばん事は
- 8かしら×しろふ
- 9地にふして、心ざし
- 10かしら×しろふ
- 10見んとぞいのりける
- 11めうをん まふて
- 12給ふらうしがんくは
- い めいけん×
- 13きたり××
- 15かへ(ら)ざる事をし
んじて
- 16しん・とゑん・との
- 17そこくばしといふ
- 二四九頁
- 1。はしをふまばおつ
- 2なじかは かはなか
- 2水にもおぼれず
- 3ごとくに いか×
- 4見ければ こうを
- 5これは めいけん
- 7つはものを らふて
- 9きみは此 めし候か
- 12よに× 此
- 13はづかしとして
- 14はんゑき これ
- 二五〇頁
- 1われ× しくはうてい×
- 2よろこびて ぬひて
- むね×さ、ん事
- 4こつずいにとをして
- 5あたへん事ぢんかい
- 8わらつて
- 9かたらひ 山の×
- 9しゆくしたりけるが×
- 10×そのほとりにくは
- 10きゐてちうしを
- 11わが× はくこう日を
- 13あらずとて
- 14しんかをして
- 15人づてに らせまじ
- 17だいらは地のうへ
- 二五二頁
- 2つみぢ 天 だんじやう
- 4たのもののかり。
- 4ひぎやうじさいの
- 4つゝみ地には
- 6せいだうをおこなは
- 7はたほこを
- 9いれたるはこ
- 12かろんずるみち
- 13たちかへりてぶやう
- 14にのみ ざる×ゆへ
- 16入×たるはこ
- 二五二頁
- 2ぐんびやうていじや
- 2すくはんとするに
- 3おかされ給はん事
- 7おつるほど。なり
- 8そなへむとて
- 9うなだれ だて×
- 9おもひ×はや
- 11られのたもとは
- 11たえざらん
- 12みかど×これをき、し
- り。て
- 13けん たてまつる×
- 14くすりふくろをけん
- 15つるぎはくすりのふ
- 16こそきりたりけれ
- 16つゝみて かへり×
- 17八ツぎきに
- 二五三頁
- 2よりとも、
- 2しきだいけれ
- 46句 文覚
- 5さんぬる 十二月×
- 7としごろ日ごろも
- 8すゝめたれたりける
- 10もんあん だうしん
- 12見んとて くさ
- 12はひ入てあをのきに
- 13なんど×、どくちう
- 15大じかと人×に
- 16ござんなれ いでに
- 二五四頁
- 1みんとて
- 2つらゝゐて をがは
- 3たるひとなりて こ
- 4おりひたりくび。ま
- でつかり じゆをみ
- 6なじかは やひば
- 7中を いうくしげ
- 8どうじ一人きたりて
- 9いのちでは
- 9いきいでにけり
- 10心つきて大のまなこ
- を見いからかしわれ
- 此たきに うたれ×
- 11じゆせん 七日に×
- 12身のけ×よだつて物
- 13かへりて きたりて
- 14てを 三七日
- 15とや。びんづらゆふ
- 16くだつて しゆそく
- 二五五頁
- 1いで× いつくしみ
- 3むじやう ゆうまう
- 3くはだつちからを
- あはすべしとの
- 5へ。てくも、ろを
- 7しふ つぼに けて
- 10こがはきんぼうせん
- 11日ほんこく もなく
- ゆきまはり きうり

12 やいばのげんじや
 13 たかおにじんごんじ
 14 きよ丸がたてたりし
 15 たちこもり又あきは
 16 とほそは風にたふれ
 ておちば おかされ

二五六頁

20 十ぼうだん ありき
 4 いれず こつない
 5 大をんじやうをあげ
 6 ましますXかほと
 8 もんかく かうぶつ
 11 けみやう ほうしや
 13 三どく かなしひか
 14 たり(一) いたづら
 15 ほしる ゑんま
 16 ぞくぢんXうちはら
 ひてX たくましふ
 17 ぜんべうを かなや
 二五七頁
 1 かへり ゆへに。
 2 せんまんの しじや
 3 せずと かるがゆへ

5 それたかをさんXは
 山たかふしてしかも
 5 こずゑをあらはし
 6 たにふかふ のほら
 7 あそぶ かうぢん
 7 しん(一)あり
 8 ぶつてんを なり共
 9 せざらんX つるに
 10 一きよしんのきふ
 11 のほうりき さんの
 11 ぎうしゆんぶみ
 12 ちんえふさいくはい
 13 せんご大小
 15 ちしう三年
 16 とこそよみたりけれ

二五八頁

1 さいばらをX こんX
 2 きんちやうぎ、めひ
 3 つけてX 大をんじや
 う。にちしもちが
 4 しやつX あれ。
 5 おの。 すけゆきの
 8 はたとうつてうちお

9 たふすすけゆきの
 10 のぼる まきたる
 11 ぬきだして 手
 12 .みぎのて ぬひて
 12 あひだおも にはか
 13 手 もちたる 此
 14 さはぎあはな、め
 15 ありむね どころ
 16 ぬゑて きりては
 17 もんかく かにう

二五九頁

1 ゑひやおふとくみた
 2 ひちを をとらぬ
 3 なりてXかしこが
 ほに上下Xよりて
 4 あくこうはうげん
 5 ひつばられて
 6 ほうがをこそX給は
 8 なんX ほこXられ
 9 きほうしきつくはい
 10 ごくぢやう ぐはん
 11 Xくみたるくはん
 12 たうざX じうにぞ

なされける みふく
 14 おこなひてあるべか
 14 さはなくして又くは
 15 みなほろびうせ
 16 をひては をんる
 17 なかつなX
 二六〇頁
 1 おはし いせの国
 2 はうべん 申けるは
 3 つゑて 事にあひて
 4 どさんらうれうの
 4 物をこひ
 6 ふみをX けしき
 6 たづねてえさせ
 8 ほうしX物をえか、
 ぬぞをのれらかけ
 9 あひてしよくはんを
 11 どさん ごときの物
 ども 此 給Xる

二六一頁

12 かひてX きよみつの
 14 たてまつつたれ
 14 かやうの事やいふべ
 きぞとの給ひける
 15 いせの国Xあの、津
 15 とをたふみ にて。

2 かつぱと たつて
 3 よびたり ほどに
 5 りうわう なみ風
 6 国へぞつきにける
 6 いでし日 かへつて
 7 くやう くらくなる
 8 みち じゆんぶう
 9 三十一日があひだ
 9 ぞありけるされども
 10 をとらず 事ども
 12 すまひ すけ。へつ
 ねにはまいりて
 12 ものがたり
 14 心 おはせしか平家
 15 源平の中にわたの
 16 はやXむほんおこ
 ひて日ほんこくを
 給へ らいりてう此
 17 事をの給ふ物かなわ
 れはX

二六二頁

- 1 とぶらはん×ため
- 1 とぞの給ひけれ
- 2 わざはひ
- 3 とが 心をみんとて
- 申らんとおもひ
- 4 しろひぬの
- 5 すけ×× ち××
- 6 ちはごくしやのこ
- けのしたにうづもれ
- 7 むねありてごくもり
- にこひて此十四ねん
- 8 かけて たら××
- 8 いまは一ごうも
- 9 もんがくはこかうの
- 10 一ちやうそれとは
- 12 むほんを×
- 12 それ×やすき事なり
- 13 まいらせん
- 13 さ申・御はうも
- 14 あてかひこそ大きに
- 15 ゆるさふ わどの、
- 16 ふくはらへ 一日の

17 ずらむん かへつて

二六三頁

- 1 しのんで七日×
- 3 るにんさきの×
- 4 給はらば もよをし
- 5 天が いざとよ
- 6 とづめられて
- 7 うかがひて
- 8 くだされ もんかく
- 9 国へ ばうに 事を
- 10 おもはぬ事もなく
- 11 します つきて
- 12 よろこびて うがひ
- 14 平じくはうかを
- べちじよし××
- 15 ほろぼさんと。す
- 16 そうべう ならんで
- 17 ていぬをかたぶけ。
- 17 あやうふせんとする

二六四頁

- 1 はいばくせすと
- 1 しかるときんば
- 1 めいじよ

2 ししゆをかうぶる

2 平氏

- 3 おんでき
- 5 ちしう さき。ひや
- 4 7 句 平家東国下向
- 10 うちて ベしとて
- 11 ありてたい 道
- 13 日に× へぞ…ける
- 14 こまつ ていはい
- 15 ぢう きせながを
- 16 もえぎ むまに××
- 17 きぶくりん をひて

二六五頁

- 1 よろひ ふとく
- 2 よろひ。かやく
- 3 しかばめでたき×
- 3 としごろみやばらの
- 4 女うなき
- 4 きやくにきたり×
- 5 ひさしう きやく
- 6 しばく の女ばう
- 7 ねとゆうにやさしふ
- 8 ひとぬ あふぎをば

9 ぞやとはれいざ

10 こそでをつかはす

- 11 ちさと をぞをくら
- れける
- 13 さつまのかみの×
- 15 さだもり ついたう
- 二六六頁
- 2 ちうぎのせちゑを×
- 3 たゞしふしてせつた
- うをたまはるしうへ
- い天ぎやう いへ共
- 4 ひさしふして 平の
- 5 つみたう いづもの
- 6 かはの ざつしき
- 8 せんぢやうにしてて
- きなた、かふとき
- 9 さればう10なり
- 11 九月、二六八頁13る
- (富士川)
- 16 ざる人々は
- 16 おもむき給ふたひら
- 17 事も。あやうきあり
- 17 やどをかり

二六九頁

- 1 こけにう4たり
- 6 とうひやう衛のじう
- 8 ひやう×衛のじう
- 11 あうぜつこゑおひて
- 16 かん×ぶどうなん
- 16 ふしのくすり×
- 17 ほうらい× いざや
- 二七〇頁
- 1 どう あり すぎじ
- 2 ×まへにつみひざま
- づあてそれ大べん
- 3 なはかくべつ
- 5 しふ ほつせ ども
- 6 月× か、やひて
- 9 かんおうにたへず
- 9 はくれうと
- 11 いろにあらはれに
- 12 おんでき きうとを
- 4 8 句 富士川
- 15 いはれけれ(ば)
- 16 殿の御ぢやうには
- 17 すけどのに

二七一頁

- 1 つゐて 十まんぎか
- 2 人もみな せい×
- 3 候× べふや候
- 5 の国×せがはに
- 5. しなの、きたり
- 6 せいぞろひあり廿
- 7 のぼるを。
- 9 とらせてけり
- 9 すけ殿のせい×
- 10 はたと で候 五百×
- 14 山をうちこゑて
- 15 などかまいらで候べ
- 17 なが井めし×

二七二頁

- 1 み×せい わらひて
- 3 い候 申×ぢやうの
- 5 よろひ× やすふ
- 5 一人にはせいのすく
- なきちやう五百きに
- はをとり候はず
- 7 たふさず とも
- 8 いみはれて。こ

二七三頁

- 9 そのたをつくり
- 11 しつて候 まいり候
- 12 きみをおく(せ)させ
- 12 はかりごとによると
- こそ×申つたへて候
- 15 みやう日・源平ふじ
- がはにてやあはせ
- 16 いづするがに
- 17 あるひは山に かは
- 2 かはもてきにてあり
- 3 みたりける水とり
- 4 たちたる すはや
- 8 むまをば つなぎた
- 8 はすれ共くいぜを
- 9 とりて
- 10 かうべをふみわられ
- あるひはこしをふみ
- おられて。さけびお
- めくものもあり×廿
- 11 大ちもうごくほど×
- ときを三×どつくり
- 12 けれども平家のかた

二七四頁

- 13 まい。る(2例)
- 16 御ばからひ
- 17 うちと。りなれば
- 17 四郎 とをたふみ
- 1 平家をばつゝめて
- 3 あり うちて やの
- 一ツだに にげの×
- 4 事にこそあり これ
- 6 うちて あいだ平家
- をばひらやとよみ
- 8 おつるいせへいじ
- 9 かみ。ふじがはに
- 9 たりけるをよめり
- 11 むまにやのりにける
- 12 は。ふくはら。へ
- 13 らるゝこれもあり
- 14 おこなへとぞの給ひ
- 14 さぶらひらうせう
- 15 たゞきよが 事×
- 17 にげこもりて
- 1 候はざつしに

二七六頁

- 3 候はず つけても
- 5 せうしやう うちて
- 8 とうだ 給はつて
- 9 たやすふ うちて
- 10 たゞぶん
- 13 よみ給へるたゞぶん
- 15 もたせて きよ見が
- 16 あひつれ×てしやう
- 16 おこなゝ17しやう
- 1 ぜう もろすけ
- 1 うちてに
- 2 みことりの ひがし
- 4 しつべい なかれと
- 5 たゞぶんこれを
- 6 ばく×に
- 7 うえじに、ぞけれ
- 4 9句 五節之沙汰
- 12 おなじくふくはらに
- 十三日。だいつく
- りいだして
- 13 ひきければ すしく
- 15 野の中たの中なり

二七七頁

- 16 といちのさと、もい
- ひつべしみやこには
- 16 御けいの
- 1 けい さいぢやうし
- よ じんぶくと、
- のふ大こくでん
- 2 れうび したに
- 3 きうをつくりて し
- んゑんあり御ゆうあ
- り大こく 御かぐら
- 5 大こくでん たい
- 7 こんねんはしんじや
- うゑ あるべき
- 8 しん 五せちゑき
- よ見はらの天わう×
- 9 みやにて
- 10 かりし夜 しんによ
- 11 五せち うつり×は
- 13 やぶられし大じやう
- 14 みやこがへりあり
- 16 いげ てん上人われ
- 17 はじめとして われ

二七八頁

- 1 へんしときも
- 1 しざいざうぐを
- 2 物ぐるはしきみやこ
- 3 がへりあり
- 4 ナづまさ つゐて
- 5 なんとに おはし
- 7 事にも しんよ
- 8 たやすからじとてに
- う道しやうこくの
- 11 二まんよき はつか
- うす かしはぎにし
- ごりなんと×いふ。
- 5 0句 奈良炎上
- 15 じへじゆぎよ
- 16 まいる×でうこれ
- 17 ぞんちのむねあらば
- 二七九頁
- 2 ひきおとせ
- 5 えす。その 二人が
- もとゞり 又なんと
- 6 つくりてこれは平
- 6 なづけてうてふめな

んど×ぞ

- 7 こと ざる。は
- 8 たうぎんのくはいそ
- 10 事共をつたへきいて
- 11 太郎かねやすを
- 12 ふせられ
- 15 うちて にう道の四
- なんとうの中將
- 17 なんとへ らうせう
- 二八〇頁
- 1 はんにやし×
- 2 さかもぎをひきかい
- だてかひて 二て
- 3 をしよせて。ときを
- 5 をつけ い×れば
- 5 もの共うたれにけり
- 7 やぶれぬ×おちゆく
- 7 なか 四郎やうがく
- 8 ゆみやを じ
- 9 もえき ぼしに
- 10 大なぎなたこくしつ
- 11 十よ人 たて×
- 11 うちいでたり

12 ぐんびやう

- 13 やうがく ふせぐ
- 14 やうがく けれど
- 15 とうの中じやう
- 16 じのものほかにう
- ちたちて 下ち
- 二八一頁
- 4 ぎやうぶ あゆみも
- 5 をんなわらはべは
- 7 てき のぼせじと
- 7 まうくははまさしく
- 8 しうねつ大しうねつ
- 9 とうじら だいの
- 10 おはしますぶつぼう
- 11 ゆじゆつ らう
- 11 しゆたんをまじえし
- 13 じつぼう なぞらひ
- 14 ×てづ こんどう
- 15 な×そのくも
- 16 まんぐはつ みぐし
- は。おちて大地にあ
- 17 くも 四十一×の

二八二頁

- 1 ぞらに。みちく
- 2 ものは
- 5 うでん みかき
- 7 くそんのごあるべし
- ともおぼえざりしに
- 8 かなしみ ほんじや
- 9 さはぎ おうご 神
- 9 おほしめされけん
- 10 がたし。かすが野の
- 11 まで× しるしたり
- 13 三百よ人×
- 15 くびを みやこに
- 15 とうの中じやう
- 17 いげ がらん×
- 二八三頁
- 1 おほちをわたして
- 2 じ×めつ にもをよ
- 3 すてをき しんびつ
- 4 天下× 天下も
- 5 天下 かりつる
- 6 ちしうも五ねんにな
- りにけり

二八七頁

- 平家巻第六
- 4 ちしう ひやうかく
- 4 よつて。しゆしやう
- 5 とうじのくぎやう
- 6 まいられず じうし
- 6 よし野ゝ7 らず
- 7 むせびて しくぞ見
- えけるぶつぼう
- 8 事ぞ しき。ほう
- わう仰 したたい
- 9 なれば。く
- 10 なんとゝ11 らる
- 11。おひ あるひはき
- 12 のうちりけぶり
- 12 むせび× わづかに
- 13 むるは一人も
- 14 けふりと。心
- 15 しかばいくほど×
- 16 此ある きひて
- 二八八頁
- 2 よみ給ひとぞ 御
- さいゑあるべきとて

- 7 どのをいま一ど見
9 きみへめされしうへ
9 いふとも。ことばを
×かはし文をも見る
べきならず
- 10 つら〜だに×か
け給はず せめ〜に
11 かきて此女ぼうのお
11 うちへぞなげ入たり
13 女ぼうの× せばやく
13 れけるが
13 たふ〜14××
14 とつて見給はずうへ
14 なげいだす××
15 なく ふおもはれ
15 ども。人も
16 いれ かへり×
17 におもひすつらん
- 二九五頁
1 此世 かがたしげ
1 より×
2 ねがはれ あはで
3 なふ 大〜4道
- 4 ひめは だいらへ
4 給ふれむぜいのせう
しやうのきたのかた
もおなり6にうだう
6 此 此世の中あし
かり〜7中をめしい
ださばや
7 事はいかにもありな
8 ×心 べきと。だい
りを×ひそかにげ
8 いづくともなくうせ
給ひぬ
10 に・むせびおはしま
す× 月×を
11 き、。 がゆへにお
もひ
12 たんなり はとて御
12 たてまつらす
13 そねみ給へ×ばにう
14 人〜次頁3 なくに
- 二九六頁
3 いかでか 申せば
4 らんこがうは
- 4 ほとり おりどかや
したんなるうちに
5 たづね せてんや
6 なくに なを×し
り候はでは
6 (と) 申ければ
7 げ×に なみだを。
ながさせ給×ふ中く
につく〜×物を
8 ことひき給ふ人ぞ
10 めされ。 なりとも
10 ず×物を× いくほ
どかあるべきに
11 たづねむ。 もしや
12 まいらせて 候共
13 うはの ずらむ
14 御しよを れうの
16 おじかなく此
17 き、けれ共
- 二九七頁
1 ところ 給へる事
2 を見まは。 のとの
3 たのゝあはず
- 3 しふう まいりたらば
4 中〜 も。あし
5 わうち やどり
5 にせんずるとおもひ
けるが
6 ちかきところなれば
もし月の まいり
7 あゆませゆく
9 ひきすさまれける
10 しばしひかへて。
10 。まがふべふも
10 こがうのとの、
11 おもひてこふとよむ
11 いとをし〜14 なかり
15 うれしう
16 ほそめにあげたい
けしたる いだし
- 二九八頁
1 なか〜返事を
1 さ、れてはかなはじ
2 かしまつて
3 いかに〜やらん
4 申×ばた〜うはの
- 5 給りてまいりて
5 ×たてまつる。こ女
6 こがうのとの
7 けるあひだ
8 なんとにて候
9 とかう申べきやう候
はねども 候×し
10 つねはふゑ。 いか
でか〜ふべきぢきの
御かへり事
11 おしふ こがうのと
12 に入道×
13 事をのみ申とき、
15 あすよりはははらの
17 さぞな さすがて
- 二九九頁
1 やすく× しはり
3 あるべふも なげき
をばされば
4 まいらせ給ふべき
4 ともに。ぐし
4 めぶ〜5 いふ
5 もの。を しゆこ×

7を×馬きうのしやう
 (じ)にかけ 御しん
 8ゆふべの御ざ
 9むかひかんうんはな
 をあきの つげがた
 10せんばうをた××
 10月によせあたふと
 11つんとまいりこがう
 のとのの いだして
 12御かんあつて さら
 (ば)ゆふさり
 13せける・にう道 又
 15むかひにまいりて候
 と申ければこがう×
 17ひめみや ねうゐん
 三〇〇頁
 1いかゞ4ども
 4れてとし廿三にて×
 8なり又あんげん 同
 9ぎんがのほし
 12ちしう四年 だい二
 13めしつる此君

14おひてこに かなし
 みはなし
 15さきだちしより×も
 16せんごの まよふと
 かのともしつなの
 17かきたりしふでの
 三〇一頁
 1ま、に×かの一じう
 1ぎやうぼうの御くは
 んじゆも
 2天が くものうへ
 5はらの
 6ゑらばれ てんぐ
 7わづか×三七日だに
 もすぎざるに
 8さ、やきあはれ
 54句 義仲謀叛
 13はんぐは たちほき
 13こなり きうじゆ
 14十六日× ちうせら
 れたり
 16木そのちう三 くれ
 17かひくしふ

三〇二頁
 1よにすぐれ つねに×
 2此廿四ねん
 3こそ。八まん
 5つはもの たちほき
 6よつてなはりととして
 9さはがれ
 10一こくのつはもの×
 11国にはよ五しやうぐ
 んのまつえう
 11すけなが同×四郎
 13うちて ずらむとな
 いくはさ、やく
 14じやうの すけなが
 15木そを 同× いげ
 16そんしうだらに
 17同× かはち 候×
 17よしもとが
 三〇三頁
 1どうしん。のよし
 2うちて うちて
 4すぎ ときを 入か
 へくすこく

6いしかはの× ぐはん
 7をひて りやうあん×
 10うさの大ぐうじきん
 みち きうしうのも
 の共がたの三郎
 11へつき まつらたう
 にいたるまで
 12ださいふの下ちにも
 12そむき(一)なんか
 13たんぞういげ 源氏
 15うちてはきよねんも
 17べふ にも候
 17をば。ふみ
 三〇四頁
 1とうごくへはつこう
 2すべき×よしをこそ
 せんげせられけれ
 55句 入道死去
 6ならざる事 ×その
 7同廿 大ち×うちか
 へしたる×
 8にう道やまひづき給
 13な×どの

14みづから ほのほと
 14くろけぶりでん中に
 15ほうざう といふ人
 15ゑんまの むきて
 16しうねつごこくへ
 17もんのうちへさし
 17りうせいなんどの
 三〇五頁
 1たひやく にう道
 3あるところ
 4せんごにたちたる
 5もじ×ばりたる
 6ふだをたて
 7ゑんま× 大じやう
 にう道 御むかへに
 11身のけもよだち
 12たちかたなに
 13××しるしもなし
 14同×うるう (二日)
 15なく× 日にそへ
 17とぞの給ひけるにう
 17ましませしかども
 三〇六頁

4 だうたうをたて。け
うやうをもち。なすべ
からずやがてうちて
6 同×四日やまひ
7 水をそぎ。ぎ。心ち
7 もんぜつびやくぢし
てつゐにあつけじに
、ぞしに給ひける
8 大ぢもうごくほど
9 ばんじう すぎじ
10 こんねん六十四
15 たび。 つくりをか
れしざいぐうなれば
16 同×七日おたぎにて
けぶりとなしたてま
つりみやこ。17が
る
17 きやうのしまにぞ

三〇七頁

6 こゑにて
7 正月×は
8 天がくらやみと
9 うれひざる
11 つゐて 見ければ
11 ほうぢうじどのに此
12 あひしりたる
14 のみえひて×。とか
や。をしよせさけに
あひける。まいり
16 にぞひつすえたる
17 あひたらんものは
三〇八頁
1 人のものも
2 れいじせんぼう
2 しせられてのちとて
もくぶつ
5 どもぞ…ける
6 (せつ) ろく。さん
ろう。うぢ入なんど
7 これにはまざるべき
8 よにいたるまで×

9 おうにん 上じゆん
×。同×八月×
10 ゆりうしなひてき
10 あはの。ぶぎやう
11 ざいぐう。かきて
12 つかれたりける
5 6 句 祇園之女御
17 ゑいきう。ねうご
三〇九頁
1 給ひける。ぎをん
1 にてぞありける
3 御かうのありしに
4 めざせ。申ばかり
6 きたり
8 なり。もち。きこ
ゆるうちでのこづち
9 さはかせ。ただのり
10 ゆきむかひて
13 たらん×はよにねん
なかるべし
14 あつてはさつと
14 あつて
16 とほし御らんあるに

17 じうじ。みあかし
三一〇頁
1 てびやうといふ物
2 かづきたり
3 こむ(ぎ)わら
5 いかねん。ふるま
ひ××
6 御さいあい。ねうご
7 むめらんこ
9 けるに。むめり。こ
とに××
10 がかへ××。ども
10 びんぎも
11 きの国いとか山
三一 一頁
1 めして。うたをぞ
3 なのらせ。とし×ひ
4 四の。くはそく
5 めされ×。くはそく
6 天ちわうをむみ給
6 ねうご。たいしよ(く)×
とて此ねうごのむめ

8 むみ給へり。たうの
8 ぢやうゑくはしやう
9 まことはしらかは
10 さばかんの天がの大
事のみやこうつり
11 人申ける。三一八頁
5 7 句 国綱死去へ続
ク(久原本ニ。流砂
葱嶺。無シ)
三一八頁
5 7 句 国綱死去
8 同×うらふ二月
9 やまいづき
10 八だいのまつよう
12 になべいのころ。四
12 じうまう
13 きたり。しゆつぎ
14 かひてまいり
16 しんじのざつしき
16 御かんあつて
17 あれとてめしいださ
17 てんかほうぢうじ
三一 九頁

- 2 ぎやうがうありける
- 2 水にたふれ入
- 3 たりけるに てんが
- 4 され、ければこれ
- 5 と、のへそうしたり
- 6 り。ひやうし
- 7 いわとをしひらきけ
- 9 しやうたいのころ。
- 10 みゆき くはんべいの
- 12 そうづ。一とつ
- 13 山かげ 大い、
- 14 さまに×だく いれ
- 15 これは じつに×
- 16 はなたれし
- 16 られし、17 かや
- 17 上代 きやうの
- 三三〇頁
- 1 ほつしやうじ(2例)
- 2 此人は
- 3 一しゆ×にう道
- 4 一人やうじにして
- 5 三かの中じやう
- 5 ちしう四年
- 6 けるに ありし中に
- 8 たちぎ、
- 10 ぎうの がくはう
- 12 かなしみ給ひ
- 13 なき給ひける
- 16 つくらる ぶんさい
- 17 さかしくしき 事×
- も この(人)大
- 三三一頁
- 3 くるまをもちきたり
- 5 すでにたけたり
- 7 二ゐの あがられけ
- 5 8 句 須俣川
- 10 二× ほうぢうじど
- 10 此 おうほう三年
- 12 せんずいの やう×
- 14 そう。せられけれ共
- 三三二頁
- 2 同三日 ことはじめ
- 3 やはたへ ほうてん
- 5 の。ぶぎやう
- 6 大ぶつでん
- 7 ふかふおさめて
- 8 かんしやう
- 10 国× みやこ
- 11 うちてをつかはす
- 12 うちて
- 13 同×せう将
- 15 源氏のかた
- 16 すけの おはり
- 17 夜にいりて
- 三三三頁
- 3 わたしたれば
- 4 のこりすくなふ
- 7 ぶぜい たぜい
- 8 源氏のはかり事はか
- なくなりとぞ
- 9 やつはしがは
- 10 そこを× て×せめ
- 11 さひやう衛の
- 14 こんねん又にう道
- 15 ねんらい×
- 三三四頁
- 5 9 句 城太郎頓死
- 3 にんずるぢうおんの
- 6 おびた、 大きなる
- 8 かたふど
- 9 すけなが これ
- 11 あくる じやうをい
- で、。十
- 12 と。見えければ×
- 13 つゐにしに、けり此
- 14 やうわとかうす
- 16 又 ちしう
- 17 にう道てんが 給ふ
- 三三五頁
- 2 ゐんざん ちやうく
- 3 がわうおん やうわ
- 4 しうふう をえてお
- 7 すまゐ もあらじと
- 12 さいしゆじんぎごん
- のたゆう大なかとみ
- 13 かうがのむまや
- 14 つゐて てうぶく
- 15 なはれ かう三ぜ
- 16 かくぜん こそ×し
- にけれしんめい×
- 17 なしといふ事いちじ
- ろし又だい うけた
- まはつてじゆせられ
- 三三六頁
- 1 じちげん くはん
- 2 此 しざい
- 3 そうげき まぎれて
- 5 かふむらせ
- 6 ゆうせう ゐんがう
- 7 やうわ
- 8 同×そのとし もん
- 9 かふむつて
- 12 てんどく
- 13 ぐんびやう まいり
- 17 ぐんびやう すると
- き(こ)ゑしかば
- 三三七頁
- 3 中にはあまりに。さ
- はひでわうずいを
- 4 かく×あらん
- 5 まふで さんもん
- 7 天ま とぞ×申ける

60句 城四郎官都

註

10 かがす 次頁二二二までに同例1つあり

11 守 すけなが (詞章前後す)

13 では いんぞつして

15 よだのじやう

三三八頁

2 人がありけるが。つ

きぬ

4 何×十まんぎという

11 たうけたけの

12 以下 せんぐす

15 いふがひなく じゆ

あゝも二年になりに

けり

一九一七 次頁二二二までに同例1つあり

(詞章前後す)

一九八 「競」 久原本は「きそい」、京都本

は「きおう」と表記する。以下、京都本

三三頁までに次の例あり。

一九九・一九一 二 四 九 一 一 二 一 一 二

一五・二〇九一・三三六

久原本巻四の目録に「三十四句きそい」

とあり、この中、文字「そ」は訂正され、

旧字をスリ消して、その上に記されている。

旧字は不鮮明であるが「お」の如し。

三二一六 同じ例は三八頁までに三七五・七九・一一

三二八にあり。別に二六六・二四八参照

二四一四 「はんあき」の例、他に二五〇頁までに

二四一六・二五〇・二一三にあり、省略。

眼移りによる脱落や本文改変について

二七五 久原・京都両本の本文はほぼ直線的に一致する。すな

わち「さだもりひでさとくは(わ 久原) んしやうおこなはれける

ときたゞぶんしげふちにもくはんしやうある (有 久原) べきかと」

云々、書写の際の眼移りによって右の傍線部を脱したものである。

右本文中の「くはん」を久原本は常に「くわん」と表記する。右に

脱した「たゞぶん」については二七五・二七六五など参照のこと。

なお眼移りによる脱落かとも思われる例が二六五・四「その女ぼう

のもとへやんごとなき女ぼうきやく(まれ 久原) にきたり(つて

久原)」にもあり、ここもまた久原本は傍線部を脱した本文となっ

ている。

本文の積極的改変か過失的脱落かは判定困難な問題であり、慎重

な考察を必要とするが、該当箇所を含めて前後の詞章が直線的に一

致する場合、換言すれば該当久原本本文の生成が特定の二母胎本に

よってなされた場合には眼移りと判断する。

例えば二四五・二、この箇所の相異は拙稿(一)に指摘したように

右母胎本とは明らかに異系統の平家物語の本文をも参照して、これ

を切継ぎ補入して生まれた合成混態本文がもたらしたものであるし、

また二〇一以下以下の牒状の発給順などの変更は積極的改変に成るも

のである。以上のような例もあるけれども、特定一本によりつつ本

文を作り、変更は促音化・撥音化など微細な域にとどめたケースも

また少なくないのである。

濁点の誤りについて、濁点の押し方について細かに調査すると書

誌学にふみこむ。一七七以下に若干例を挙げたが、本表に省略し

た箇所を次に示す。

二二二・二二四・二二八・二四八・二四九・二五〇・二五一・二五二・

二六五・二七五 (別に二九一・七参照)

卷4

- 一八〇15 (久原本第5丁ウラ9行、第6丁オモテ3行)
さし入せ／給へば・春すでにくれなんとす・なつの木だちにもな
り／けり・こずゑの花の色おとろえて・たにのうぐひすこゑ／お
いんたり・人まれにしてこぐらく物さびしけなる御あり／さま・
御らんずるにつけても御なみだぞす、みける。
- 一八二5 (7ウ8、9) へ御かうをはなどか御なう／しゆなかるべき
一八三6 (9オ6) 大みやの大なごんたかすゑのきやう。
一八三8 (9オ9、10) ければ・上く／わうゑいらん有て。
一八四7 (10ウ3、7) されども上くわうは中一日御とうりう有て・
入道相国の／ふくはらのべつきうにいらせ給ふ・にうだうのまご
ゑちせん／のせうしやうしゆ四る上にじよす・やうしたんばのか
み／きよくにしやうしやうしゆ四る上にじよす・それよりてら井につか／せ
給ふ・七日とば殿へいらせ給ふ。
- 一八四13 (10ウ10、11オ6) 有べかりけるが・三でうのいんの延久
のかれいにまかせて・「大しやうのくわんのちやうにておこなは
るべしとさだめ／らる・九でうどの、申させ給ひけるは・大しや
うのくわんのち／やうはをよそ人のいゑにとらば・くもんしよの
ていの所／なり・大ごくでんにておこなはれざらんには・ししん
殿にて／こそおこなはるべけれと申させ給ひければ・御そくゑ／
し、んでんにておこなはる。
- 一八六16 (13ウ6、7) しんごうの十郎くらんどよしもり・平治の
みだれよりか／しこにかくれぬたりしが・おりふし上らくしてこ、
に有。
- 一八七11 (14ウ6、15オ2) おほちの太郎これよし・しなの、国に
はた／てわきせんじやうよしおかたが二なん・木そのくわんじや
よしなか・ひらかのくわんじやもりよし・そのこ四郎よしのお・
／をがたのくわんじやちかよし・／その子太郎しげよし・いづの
／国にはるにんさきのうひやうへのすけよりとも・ひたちの「国
にはためよしが三なん・三郎せんじやうよしのりとて／しだのう
きしまに候。
- 一八七17 (15オ5、6) これらはみなせいわ天わうの御べうゑい・
／六ぞんわうのこういんなり・むかしは源平さうにあらそひて・
一八八4 (15ウ2) まことにれいしをくださせ給ふならば・これらは
一八八12 (16オ6、7) あらためて・四月廿日にすで／にれいし
- 一八九14 (17ウ4、5) にとば殿にはいたちを／びた、しくさをい
て御まへをはしりまはる・ほうわう
一九〇7 (18オ9、10)
有／べきとて御なみだにむせばせ給ふ・同十三日
一九〇10 (18ウ4、5) ほうわうあべのやすちか、三日の御よろこ
びと申た／りしは是を申けるにこそとぞおほしめされける
一九〇12 (18ウ9、20オ2) ほうわうこれをきこしめしよなきみ
やこに出て・／かくうき事をきこしめすにとて・また御なみだに
むせばせをはします・大政入道ふくはらのべつきうに／をはしま
しけるに。
- 一九〇16 (19オ8、10) でわのはんぐわん・げんだゆ／うはんぐわ
んに此よしおほせつけらる・此げんだゆ／の
一九一2 (19ウ2、3) しられざるなり・いそぎつげんとおもひて
・／ち、の三ゑ入道のもとへつぐる
一九二2 (20ウ6、7) すぐさせ給ひけり・御しよの御るすにちや
うびやうへ／のせう候ひけるが・
一九八16 (29ウ10、30オ2) よりまさちやくしいづ」のかみなかつ
な・二なんげんだゆふはんぐわんかねつな・六でうく／らんどな
かいゑ・しそくらんどのたゆふなかつ・
二〇〇2 (31ウ5、6) このむま／にうちのとつて
二〇〇8 (32オ6、ウ4) さるほとに六はら／にはぜうもうありと
ひしめきけり・ひもとはいづくぞと／たづねらる、にきそいがや
かたで候と申・むねもりやすか／らんきやつはらにたばかられに
けり・おつかけうちとれ／とのたまひけれども・きそいはつよゆ
みのせいびやう大ぢか／らのかうのものなりければ・廿四のやに
てまづ廿四／人はいほろされなんぞとて・す、むもの一人もなか
りける・／きそいは六はらよりおつてくるものあらば・一やいん
とて／ひかへ／ぞあゆませける
二〇〇14 (33オ1、7) なべのものをぞうらみける・なにとて
かくともつげ／うちつれたまはざりけるぞと申ければ・われらは
し／きりにしらせ候はでと申つれども・いづのかみどの、おほせ
／られけるは・きそいは六はらのうらひがきのうちなれば・／此
事平家にしられなんぞ・きそいはうちすてたり／ともなんまんぎ
が中をもうちやぶつてまいらんとお／ほせけるゆへにつげずと申

けり。
 二〇一1 (33ウ3、34オ2) 馬やにはしり入たりければ。／さぶら
 いどもなんりやうまいりて候と申せば。むねもりきやう／いかで
 かさやうの事有べきとおもはれけれども。いそぎいで。／見給へ
 ば。ざん／の事にてぞ有ける。むかしはなんりやういま／は平
 家のむねもりきやうといふかなやきをぞしたりける。／大じやう
 入道大きにかかつて。三井寺によせたらんときは。／じよもの
 のどもはめにかくべからず。いかにもしてきそいめをいけ／どり
 にせよ。のこにてくびひき。らんとおどりあがり。／いかられ
 けれども。なんりやうがをかみもはへず。又やきじる。／しもうせ
 ざりけり。
 二〇二14 (40オ6、10) のれうにとて大しゆの中へをくられける。
 かくてこの／こめきぬをたに／ばう／にはいぶんするに。一
 ひき／こくもあたらしゆとこそおほかりけれ。これによつ／
 て山もんすでにこ。ろかわり申ければ。ひがしさかもとに／らく
 しよあり。
 二〇一17 (47ウ3、4)
 かづさの五郎びやうへた。みつ。／悪七びやう衛かけきよ。
 二二二6 (48オ3、4) たきぐちむまのせう。つゞき／げんだ
 二二三5 (49オ10、ウ2) た。かひけるがもとより。／くきやうのし
 やうずなり。くもでかくなわ十もんじとん／ぼうがへし水ぐるま
 八はうすかさずきりたりけり。
 二二四7 (51オ1、4) 大しやうぐんさ兵衛のかみとももり橋の上
 についたちて。／さぶらい大しやうかづさのかみたゞきよをめし
 て。いくさのび／て見ゆるぞ。はやりをのどもい一つをこすべ
 きかけさせ／よとげちし給へば。
 二二四11 (51オ10ウ1)
 たゞつなし。やうねん十八さいになりけるが
 二二六17 (54ウ3、4)
 いわのはさま／にゆはずをねぢたて。ひきあけつ。二人をも
 二二〇6 (59オ2、10) 三入入だうのくびをばちやう／七となうが
 とつていしにく。りあわせて。うぢかわのふか／きところにしづ
 めければ人見ざりけり。子どものくひは／みなたづね出されたり
 けり(余白)／さるほどにみやならびに三入入道の一るい。三入
 だらほう／し。つがう五百よ人がくびをとり。夕へにをよんで六

は／らへ入つたものどもの、しる事をびた。し。たゞし三入／に
 うだうのくびはうぢ川にしづみたればたづねもいだし。ず子ども
 かくびはみな有けり。
 二二二6 (61ウ8、62オ2) いまはかぎりのわかれ／なれば。なく
 ぎよいをめさせ奉り。御かみかきなでゆい／などしていだし
 まいらせけるを夢とのみぞおほされける。女らん御は、三入の
 つばね御心のうちをしはかりてあわ／れなり。
 二二二15 (62ウ5、6) 宮そうじやうたうそんとて。とうじ／の一
 のちやうじやにならせ給ふ。この御宮。
 二二二17 (62ウ8、9) ほつこくへくだしたてまつりけるを。木そ／
 しうにしたてまつり。あつ中の国みやざきといふところに
 二二四4 (64ウ2、3) たちまちにじやうだうせうでんは給ふ事。／
 せつろくのしんのきんたちこそかやうのせうでんは給へ。
 二二六12 (67ウ6) をはくちなわ。むくろはたぬき。
 二二八12 (70オ4、9) 大しやうぐんには三入／の中將しげひら。
 ふくしやうぐんにはあわぢのかみきよふさ／をさきとして。その
 せい。まんよき同五月廿八日うのこく／に三入でらへこそよせら
 れたり。大しゆおもひきつて／ふせぎた。かふ。されども大しゆ
 はぶせいなり。くわんぐんは／大せいにてた。かいければ。ふせ
 ぐところの
 二二九17 (72オ2、4) かくてめでたかりける三井寺の／ほうりう
 もたちまちにほろびぬるこそ。是もたゞ世の／すへにをよんで。
 国のおやうきがいたすところなり(巻4末尾)
 卷5
 二四五2 (17オ1、6) 八まん大ばさつ／たうをよりとともに
 たまぶとおほせらる。はことほりなり。かすが大みやうじんのそ
 の後我まごもたまはり候へと／おほせけるこそ心えね。それも
 平家ほろび源氏の代／つぎなんのち。大しよくわんの御すゑしつ
 へいけのきん／だちの天下のしやうぐんになり給ふべきか
 二五三2 (28オ4、6) 申人あり。いや／たゞいま御大事にを
 よびなんと。つぶやくものも／おほかりけり
 二五六14 (33オ3、4) たゞいろにふけりさけにふけりいまだわう
 ざう／てうあんのまよひをじやせず。
 二六六9 (46オ2) これを／三ツのぞんちとす。さればごんのすけ
 せうしやうもかやうの／事をもさこそぞんちせられけめ。

二六九一(46オ7ウ3)雲にや／どをかり・山をかさね水をしのぎて・日かずふればおな／しく十月十三日には・平家するがの国きよみがせきにぞ／つき給ふ・都をば三まんよきにていでしかども・路しの「つわものめし具して七まんよきとぞきこえし・せん／ぢんはず、めども・ごぢんはいまだあふみの国かい津のほとり／にひかへたる・

48句 富士川 久原本は底本13行末(いでられたり)・14行頭(大しやう)間に句題「○ふじかわ」を立て、句題に続いて改行し、冒頭に次の文を置き、右14行頭(大しやう)に接続す。

せんぢんはずでにかんばらふじかわにす、む・ごぢんはいまだ／でごし・みつのやさ、へたり・(48ウ6ウ7)

二七四三(54オ7ウ9)らる・大政／にうだうおほきにいかつて・大将ぐんこ松のごんの／すけせうしやう

卷6

二九四一(9ウ4)申てびしんのことのじやうずをわしける

二九四六(10オ3ウ4)せうしやう此女ばう／だいにめされて後は・

二九五四(12オ1ウ10)しんかもなし・なんにようちひそめてきん

中／ものさびしくぞ見えし・かくて八月十日あまりにもなりぬさしもくまなきそらなれども・しゆ上は御なみたにくも／りて月のひかりもおほろにて御らんせられける・や、しんか／うにをよんで・人やある／とおほせられけれどもおいらへ申／人もなし・や、あつてだんしやうの大ひつなかくにその夜／しもたゞ一人とのゐ申てはるかにとをふ候ひけるが・なかくに／といらへ申ければちかふまいれ・おほせ下さるべき事ありと／おほせければ・なに事やらんとおもひて御せんちかふさん／じければ・なんぢもしこがうがゆくゑやしりたる

二九七二(14オ8)さればこそ／君の御事おもひいでまいらせ給ひて・かくこそおほけ／れ此かくをひき給ひける・やさしさよと・有がたふおほ／えてむまよりとんでをり・こしよりやうてうぬぎいだし／ちとならひてかどをほと／とた、けば・ことをはやがてひ／きやみ給ひぬ・だいらよりなかくにが御つかひに参りて候あ／けさせ給へとてた、けども／とがむるをともせざり

三〇〇一(17ウ3ウ6)このよしをつたへき、給ひて・こがうがうせたりといふは／あとかたもなきそら事にて有けり・なにとしてかたばか／りいだされたりけん・こがうどのをとらへてあまにな

して／をつはなす・しゆつけはもとよりのぞみなりけれども

三〇三二(22オ10)

なんかいかくのごとし・又いよのかわのをさきとして

三一九一六(34ウ2ウ4)んと・このわかぎみのをちいり／けるを・水のうへにうかびきたつてこうにのせてぞたす／け、る・

(一九九二年四月三〇日 受理)